

## 令和4年度 第10回頸城区地域協議会次第

日時：令和4年12月21日（水）  
午後6時30分～

場所：頸城コミュニティプラザ  
2階 203会議室

### 1 開 会

### 2 会長あいさつ

### 3 報 告 事 項

- (1) 新潟県南部産業団地の現状について
- (2) 第2次総合公共交通計画における令和5年度バス路線の再編について

### 4 協 議 事 項

- (1) 活動団体との意見交換から見えてきた地域の課題について

### 5 そ の 他

- (1) 令和4年度地域活動支援事業活動報告会について
- (2) 他区の「地域活性化の方向性」の提供について

### 6 閉 会

# 新潟県南部産業団地の現状について（報告）

頸城区地域協議会資料  
令和4年12月21日  
上越市産業立地課  
頸城区総合事務所

## ◆ 新規土地取得（1件）

○ 進出企業の概要  
 企業名：新潟太陽誘電株式会社  
 本社所在地：上越市頸城区上吉 197 番地 8  
 業務内容：製造業  
 取得面積：47,000.12 m<sup>2</sup>（令和4年11月30日契約）  
 目的：既存駐車場用地を工場増設用地とするため、駐車場移設及び社員寮建設用地として取得するもの

## ◆ 分譲実績（令和元年度～）

年度	企業名	分譲面積
令和元年度	信越化学工業(株)	17,050.00 m <sup>2</sup>
	サニー商運(株)	8,190.37 m <sup>2</sup>
	(有)セキヤ	3,284.96 m <sup>2</sup>
	(株)工藤工業	1,000.02 m <sup>2</sup>
	(有)イノウエ運輸	9,917.41 m <sup>2</sup>
小計		39,442.76 m <sup>2</sup>
令和2年度	中越運送(株)	13,223.15 m <sup>2</sup>
	(株)ボルテックスセイグン	10,000.10 m <sup>2</sup>
小計		23,223.25 m <sup>2</sup>
令和3年度	北日本建材リース(株)	9,814.43 m <sup>2</sup>
	東興産業(株)	8,190.35 m <sup>2</sup>
	サンヴァーテックス(株)	5,240.83 m <sup>2</sup>
	(株)タケショウ	13,223.18 m <sup>2</sup>
	(株)クックライフ	2,081.90 m <sup>2</sup>
小計		38,550.69 m <sup>2</sup>

## ◆ 位置図



## ◆ 参考

○ 新潟県南部産業団地の分譲状況（今回の新規土地取得含む）

工場用地面積	契約企業数	分譲済面積	分譲率	分譲可能面積
916,000.00 m <sup>2</sup>	53社	857,709.06 m <sup>2</sup>	93.64%	58,290.94 m <sup>2</sup>

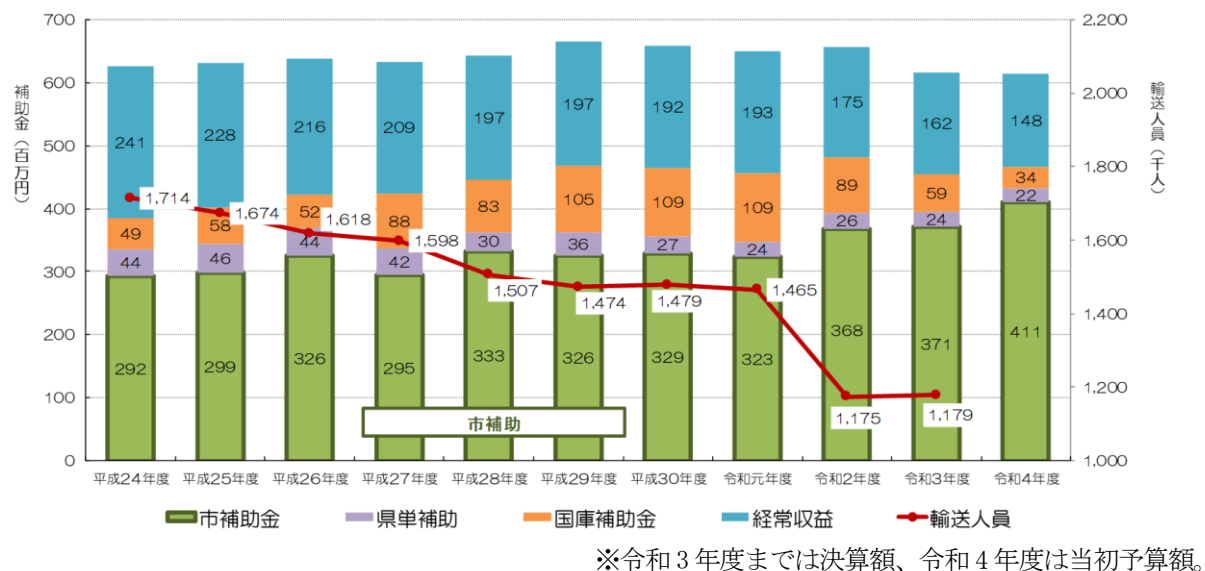
## 第2次上越市総合公共交通計画の概要

### 1 計画の目的

高齢化の進行や運転免許証の自主返納者の増加に伴い、これまで以上にきめ細やかで利便性の高い移動手段としての役割が公共交通に求められている。

一方、自家用車中心の生活様式や少子化の進行などの要因から、バス利用者数は減少傾向にあり、今後、市の財政負担が更に大きく増加し、公共交通ネットワークの維持そのものに大きな影響を及ぼすことが懸念されることから、市民が利用しやすく、かつ、将来にわたって持続可能な公共交通ネットワークの構築に向け、令和2年3月に計画を策定した。

#### <路線バスの利用状況と市の財政負担>



### 2 基本方針及び目標

**基本方針1** 公共交通により市民の日常生活の移動手段を確保する。

具体的な目標：①バスの利用者数の減少率を人口減少率以内に抑制する。  
 ②市民の声アンケートにおいて、「バスや鉄道などの公共交通の便がよい」と感じる市民の割合及び、「公共交通の利便性向上」に係る市の取組に対する満足度について、平成30年の調査より向上する。

**基本方針2** 将来にわたって持続可能な公共交通ネットワークを構築する。

具体的な目標：①計画終了時におけるバスに対する市の財政負担を4億円以内に抑制する。

### 3 路線の役割分担

各バス路線を機能や役割分担に応じて、「主要幹線」、「幹線」、「支線」に区分した上で、それぞれの役割に応じて、利便性の向上と効率化を図ることとする。

	主要幹線	幹線	支線
区 間	上越妙高駅～直江津駅	駅～病院～区総合事務所	区総合事務所～集落
役 割	中心的な駅・病院等の拠点間の移動と、市街地の生活交通を確保	13区・郊外の拠点から、市の中心地・駅へのアクセスを確保	集落から、日常生活に必要な機能がある拠点へのアクセスを確保
再編の考え方	増便、ダイヤの改善等による利便性向上	サービス水準を維持し、利便性を向上 収支悪化路線の効率化	きめ細かな移動を確保 運行形態の転換等による効率化

### 4 主要施策

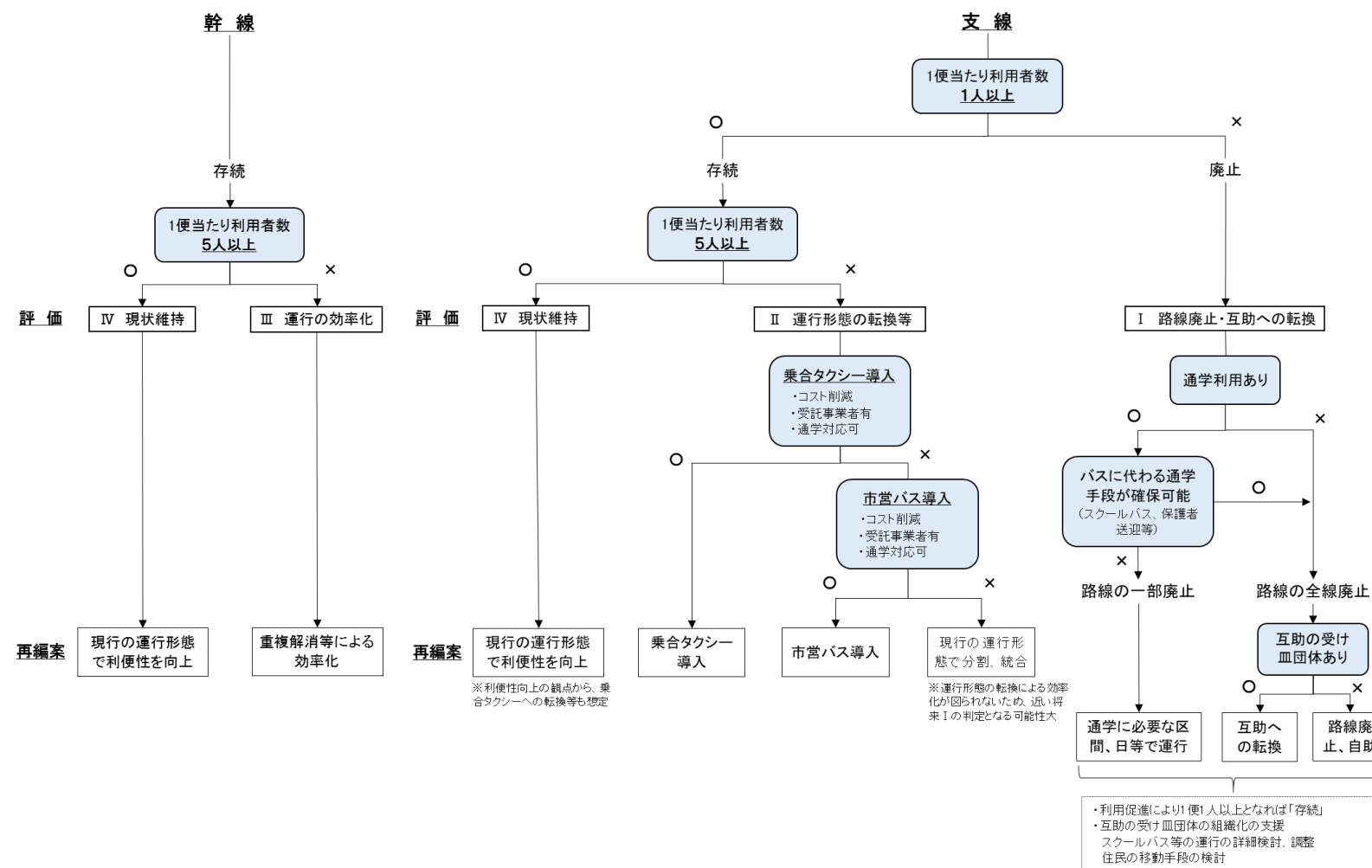
- バス路線の再編計画
- 公共交通の利用促進の取組

### 5 評価方法

バス路線の再編の評価については、1便当たりの利用者数（年間利用者数÷年間計画運行回数）を基準に毎年度評価を行う。

1便当たりの利用者数	評価	
	幹線	支線
0.9人以下	運行の効率化	路線廃止・互助への転換
1.0～4.9人		運行形態の転換等
5.0人以上	現状維持	現状維持

※1便当たりの利用者数は、年間利用者数÷年間計画運行回数により算出する。なお、年間利用者数は事業者（市営バスは市）による実績値とし、年間計画運行回数には、デマンド運行により実際運行しなかった便も含めることとする。  
 ※廃止評価となった路線の猶予期間における改善策として減便を行う場合、年間計画運行回数は、減便前の数値を用いる。



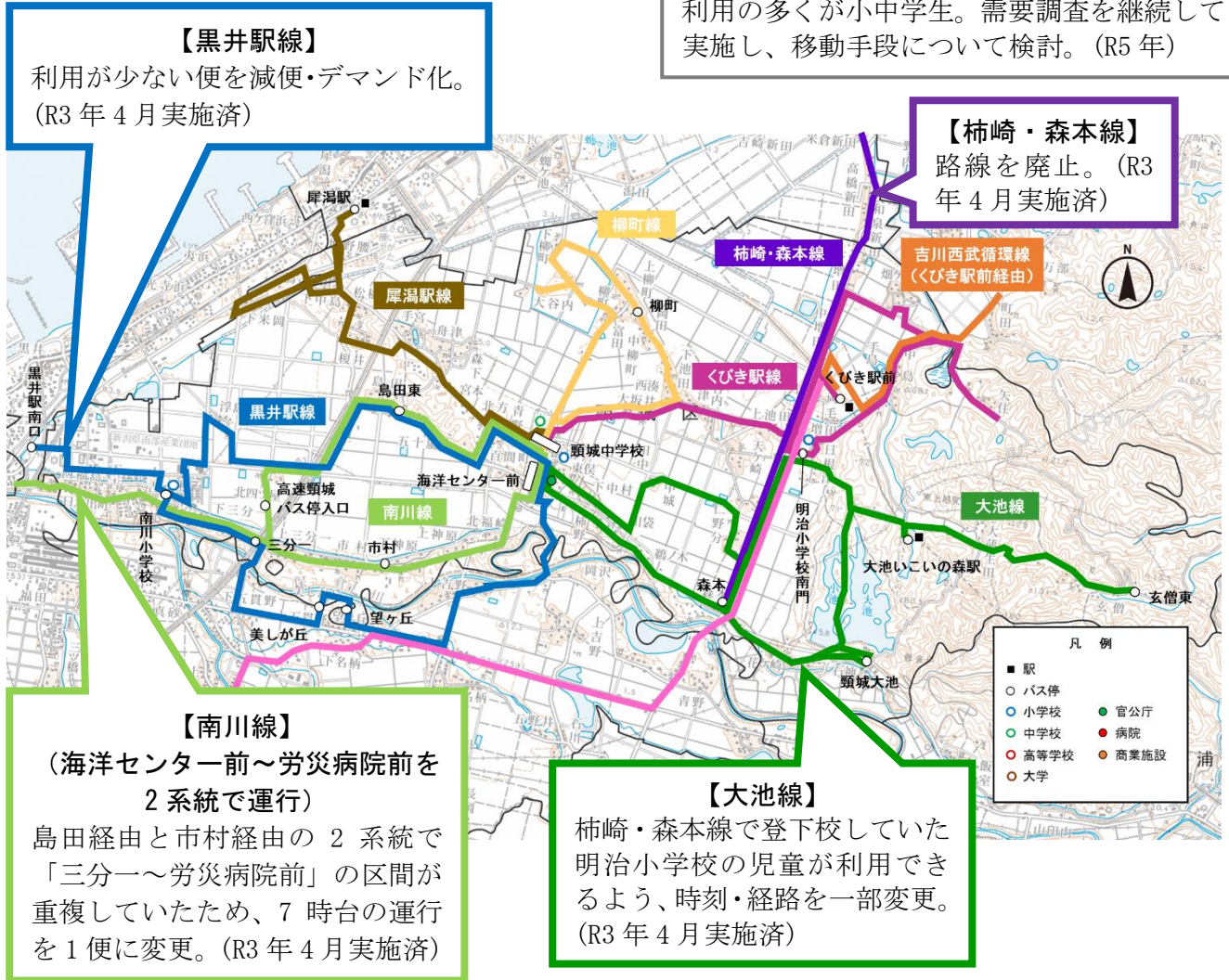
### 6 計画期間

計画期間は令和2年度から令和9年度（8年間）。

計画記載の再編は、基本的に前期4年間（R2～R5）で実施。後期4年間（R6～R9）は、評価検証や目標達成状況を踏まえて取組内容を定める。

令和5年度バス路線の再編について

1 当初計画（第2次上越市総合公共交通計画）



<参考：令和3年度の収支等の状況>

(単位：千円、人)

	経常費用	経常収益	経常欠損	収支率	国県補助	市補助・負担	利用者数	1便当たりの利用者数
南川線	21,490	8,835	12,655	41.1%	2,700	8,168	57,518	9.8
黒井駅線	10,500	2,612	7,888	24.8%	0	7,888	27,363	16.1
犀潟駅線	7,465	2,304	5,161	30.8%	1,244	3,916	29,429	8.6
柳町線	4,195	1,703	2,492	40.5%	0	2,492	28,265	19.4
くびき駅線	8,475	903	7,572	10.6%	0	7,572	8,508	5.0
市営バス(大池線)	16,668	57	16,612	0.3%	0	16,612	10,977	7.5

※市営バス(大池線)における「経常費用」～「市補助・負担」は頸城区スクールバス全体に係る金額です。

## 2 令和5年度の再編に向けた検討結果

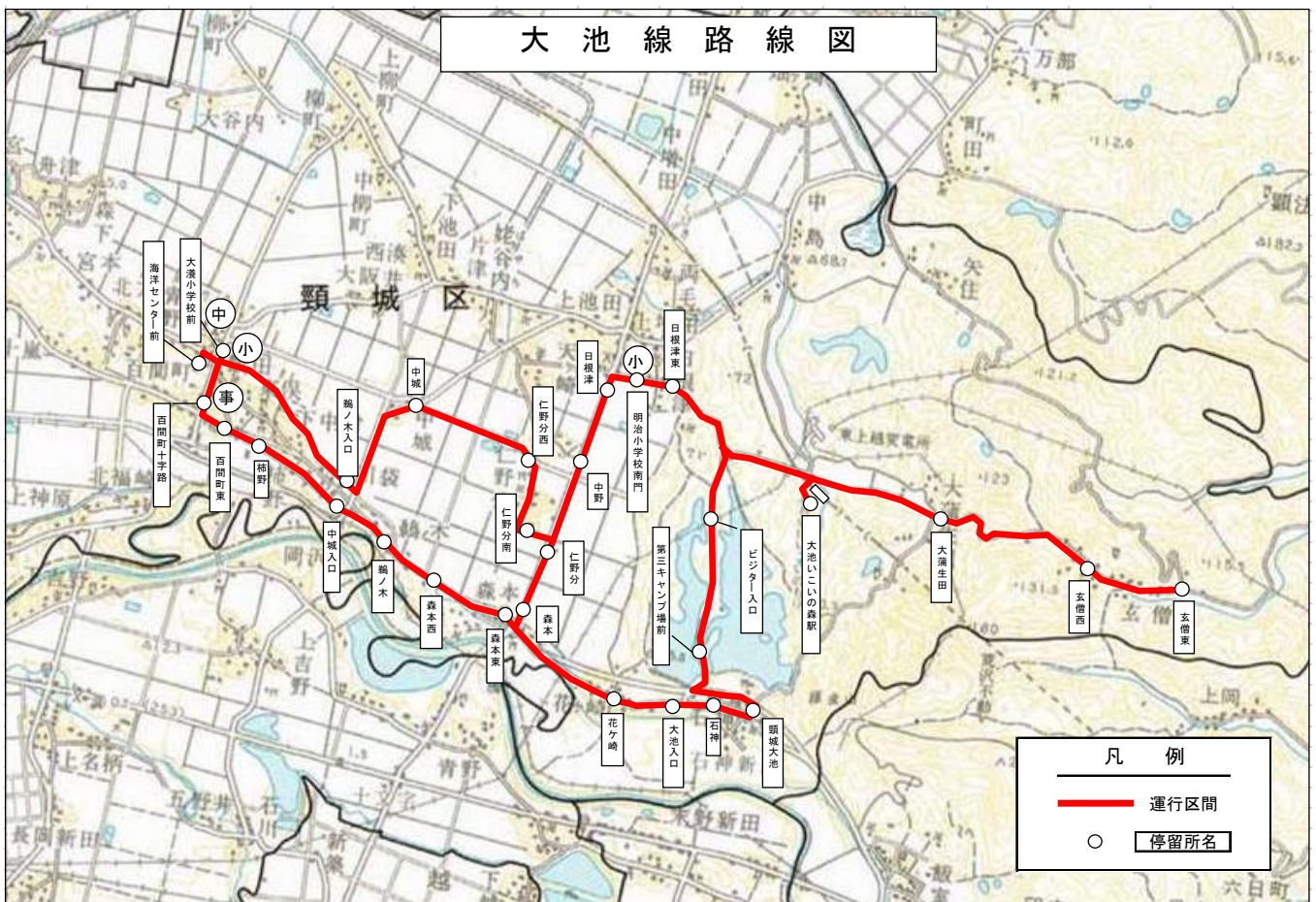
令和3年4月の再編において、黒井駅線の一部デマンド化、森本線の廃止を行った。

現状、頸城区内の各路線は利用客の大半が通学利用の小中学生でスクールバスとしての役割を担っている状況である。これを踏まえ、スクールバス担当も交え協議を行なった。

スクールバス担当からは、路線バスを優先し通学方法を検討しているが、大養小学校と頸城中学校は、児童生徒が学校を中心に放射的に点在することや住宅の整備等から、年度により各路線の乗車人数が大きく変わること。11月に中学生の約90%160人が自転車通学からバス通学に切り替わるため一部路線は乗り切れないこと。下校時間帯に合う路線バスが少ないことなどの状況に対し、季節や時間帯、校時表によりスクールバスの2往復や臨時運行、路線バスとスクールバスの併用など複雑な対応を取っていると報告があった。

これらの改善について、今後数年は小中学生の大幅な減少がないものの中期的には減少していくこと。また、路線バスだけでなくスクールバスも合わせ検討していく必要があり、今回、再編を行うことは困難と判断した。

なお、市営バス（大池線）については、運行時間に余裕がなく、降雪時に遅れが発生することと右左折の難しい箇所での改善のため、大池いこいの森駅の往復2回の停車を1回に、また、石神と仁野分の一部路線の迂回変更など効率的な運行について検討の余地があることから、令和5年中に再編検討を行う。



活動団体との意見交換から見えてきた地域の課題解決策提案シート集計

資料No. 3

◎どういう方法があるのか	◎誰がやるのか
1、小中学生は保護者会等を活用して発信する。	
2、高校生以上の年齢層には、SNSを活用して発信する。	
3、各町内会長から伝える。	3、町内会長
4、振興会だよりを活用して発信する。	4、くびき振興会事務局に依頼する。
1、アナログミックスのSNSツール(各所に#ハッシュタグ名称看板設置など)を設置又は配置して、誰もが発信できるきっかけを作る。(あれ何?から始まる)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くびき振興会を核に関係団体の連絡調整会議を作り年間スケジュールをまとめ情報発信を行うのはいかがか。(例:頸城区盛り上げ隊連絡会)</li> <li>・会議を行わずとも情報サイトの作成→団体エントリー→スケジュール発信</li> </ul> 新たな組織は不要になる、必要な人材は外部に委託。
2、頸城区総合情報公式SNSの開設+広報への掲載+情報誌掲載同時多発	
3、ネットラジオ局(時間レンタル式)開設。	
※関心を持ってもらうきっかけを作ることが必要に感じる。	
1、区内の保育園や小中学校の児童、生徒、子供達を各種行事に招待し、リピーターを増やしたり、区内のことを知ってもらう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区内地域振興会が各行事に参加できる様にする。(5振興会あり)</li> <li>・その上で5振興会が、ゆるい連帯のまとまり(組織)を作って活動する</li> <li>・お互いの振興会の活動を学び合う。</li> <li>・連帯した組織が一人立ちできるまでは総合事務所が面倒をみる。(予算と他区との繋がりを担保するため)</li> </ul>
2、同上で行事の中に参加する側に取り込む。(実行者側へ取り込む)	
3、協働して行う行事を選んで、お互いに参加し合い学び合う。	
4、行事を厳選して実施する(地域の慣習や新しい行事、復活させたい行事等)	
1、他の地域(区、市、都道府県問わず)が行っている活動を参考にし”何をしたら”興味がわくのかを(イベント内容など)調べ取り入れる。紙の情報提供以外に見てもらえる機会を増やす。(成功例を参考にした活動ややり方は今まであるか)	1,2、ともに、他の地域の情報を集め、まとめ、活用し発信できる人や組織が必要だと思う。もし区内にできる人材がないのであれば他の会では、その分野に長けた「地域おこし協力隊」を頸城に入れてはどうかなどの意見を聞いたことがある。紙では伝えられる範囲に限られるので、WebやSNSなどできる(使える)人達を地域に取り込み、地域に興味をもってもらえるツールや材料を増やすことができればいい。
2、高田本町のWebサイトのような、団体をまとめて紹介できるサイトだったり組織を作る。(他の会議でも同じような意見があがっていました。)	

◎どうする方法があるのか	◎誰がやるのか
1、活動団体からの記事の提出を受け振興会だよりに掲載する。 2、各種会議、中学校生徒会等に地域協議会が出向き説明会を行う。反応を見て次のステップを考案する。 3、特効薬はないので地道に活動を継続する。	1、一元管理は望ましい形態であると感じるが、相応の労力が必要になる。くびき振興会、観光協会とも現状では余剰な労力はない。 2、新たな人材確保、費用等、詳細な検討が必要なる。 3、過去の大池祭りでは明治振興会がボランティアを募っていた。地区協議会の協力も必要不可欠。
1、これからは区民全体の行事と成る為、各団体及び町内会に属する団体等に声掛けして、ボランティアを募集する。 2、振興会だよりを活用して、活動内容などを掲載し、町内会へ協力依頼をする。	1、区内の各団体代表者で組織を作り、組織の概要(骨格)作りから始めたら良いかと思います。 2、全ての組織本体が出来るまでは、総合事務所及び地域協議委員と共に取り纏めをする。
1、基本的には発信をし続ける必要がある。広報誌、SNS、HP(頸城区に関わるもの)	
2、訪れた方への取材、聞き取り、アンケートを取りそれを発信。	
3、区又は区の活動を仕切る役割の組織が必要。	3、現在ある組織でどこもできないのであれば、新たな組織又は有料にて外部の専門会社に依頼。
1、今まで関係した団体以外に社会福祉協議会や学校保育の関係者、太陽誘電などの区内有力企業、若手行政職員に声をかけ、地域協議会以外の声を聴く集会を開く。区内の問題を提起したうえで、その対策や、一般区民による組織作りが必要なのか意見を聞きたい。	1、総合事務所、商工会、振興会、社会福祉協議会が声掛け。
2、今迄の様に、特定の団体や高齢個人が掛け持ちする組織では何の発展もないので先ずは上記1で。出来れば若手有力者を一本釣りし、地域協議会委員と委員会を作る。地域独自予算では最低限、4つのテーマごとに各団体と年次活動計画をたてる。	2、地域協議会委員、区民代表者、総合事務所。
1、区としての取組を具体的に絵図で示して説明し、各団体と話し合いをし、団体の意見を取り入れて、しっかりした方向性を理解してもらって、取り組んだらどうでしょう。先般の説明会では各団体はイメージもわからないし、どの様にしたいのかも伝わっていないと思う。	1、各団体に頸城区としての取組と考えを示し、それぞれの団体に協力してもらって実践してもらい、やり方や方法は各団体にまかせ、イメージにそった活動を実践する。

◎どうする方法があるのか	◎誰がやるのか
<p>1、大池・小池を活かした観光</p> <p>①まずは大池・小池の知名度を上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Facebook、SNS等を使った好感度が上がるキャンプ場、イベントの情報発信。</li> <li>・頸城区観光協会で定期的到大池・小池の「映える」情報発信による。</li> <li>・ビジターセンターを市役所・地元企業などの研修会、会合に積極的に利用して大池・小池の知名度をあげる。</li> </ul> <p>②大池・小池の魅力を上げるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大正山、雁金城跡からの眺望できるように遊歩道と展望台の整備遊歩道などに「映える」場所などの名所をつくり来場者を増やす。</li> <li>・以前、第三キャンプ場対岸にあったアヤマ群生場所を復活させる。</li> <li>・地元商店(お菓子)と協力してお菓子名物を作りビジターで販売する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頸城区観光協会、雁金城跡保存会、頸城商工会、くびき里やま学校</li> </ul>
<p>2、他の活動含めて全体課題</p> <p>①上記にも記載しましたが地域活動は圧倒的に知名度が少ない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今や情報発信の主力がFacebook、SNS等に移っていますので、そういったツールを最大活用した地域活動、観光の情報発信が必要だと思います。</li> </ul> <p>②最大の課題は各活動団体の中心が高齢化してきている、継続するための人材不足。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらかというと、隣接地域主力型の活動のため人材が限られているため上記情報通信を利用したボランティアの募集等、頸城区だけではなく上越市全体含め、興味がある人、協力して頂ける方を募集して活動を継続する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頸城区観光協会、活動団体</li> </ul>